

専門学校と大学の接続に関する研究

－大学・短大卒業者の専門学校入学を中心に－

長 須 正 明

(川崎市立看護短期大学)

【要旨】

全国では2000年度には25,000人（入学者の約6%）、東京都では約9,000人（入学者の約10%）の大学・短大卒業者が専門学校に入学した。筆者が設計して専門学校進学指導研究会の調査として東京都で実施した「大学・短大卒業者の専門学校入学に関する調査」から以下のことが明らかになった。多くの専門学校で大学・短大卒業者を受け入れた実績があり、歓迎されているが、特別な配慮はなされていない。就職難を反映して多くの分野で女性の入学者の割合が高い。また昼間部より夜間部に入学する割合が高い。就職活動をせずに大学・短大卒業後直接入学する者が約65%を占め、「資格取得」「就職」を目的に専門学校で学んでいる。大学・短大での専攻は「経済・経営・商学」「文・教育・教養」で半数を占め、現在学んでいる専門学校の学科とは65%以上が「関連なし」で、大学・短大での専攻は生かされていない。

1. 問題と目的

1976年に学校教育法が一部改正されて専修学校制度が発足して以来、その専門課程（専門学校）は多くの学生を集めてきた。また、1998（平成10）年6月には学校教育法（第82条の10）と関連規則が一部改正され、「課程の修了に必要な総授業時間数が1700時間以上」など一定の要件を満たす専修学校専門課程（以下、専門学校と表記）卒業者の大学編入が可能になった。この法規改正を受けて実際に専門学校卒業者に対する編入学試験が実施され、1999（平成11）年度から専門学校卒業者が4年制大学3年次（場合によっては2年次）に編入学している。最近では国公立・私立大学と放送大学を合わせて年間8,000人から10,000人が専門学校卒業資格を基礎に4年制大学に編入している（長須，2001b）。

一方、大学・短大を卒業したあと専門学校に入学する者も増加している。全国では2000年度には25,000人（全入学者の約6%）、東京都では約9,000人の大学・短大卒業者が専門学校に入学しており、東京都ではその割合が専門学校入学者の10%を超えている。東京都における専門学校入学者に占める大学・短大卒業者の割合は1993年度までは約3%（実数にして3,700人）程度で推移していたが、94年度以降増加し4.2%（94）、5.5%（95）、5.8%（96）、6.2%（97）、7.8%（98）、8.4%（99）、10.2%（2000）となっている。これ以降は2002年まで実数も割合も2000年とほぼ同水準で推移している。

（社）東京都専修学校各種学校協会（東専各協）が発行している『平成13年度専修学校・各種学校調査統計資料』（2002年3月）によれば、昼間部では4年制大学卒業者は入学者全

体の4.8%（男性5.8%，女性3.9%）を占め、短大卒業者は3.9%（男性0.6%，女性5.1%）を占めている。夜間部では4年制大学卒業者は入学者全体の21.9%（男性25.3%，女性17.7%）、短大卒業者は5.9%（男性1.4%，女性11.5%）となっている。大学・短大卒業後専門学校に入学する人の割合は夜間部で高く、だいたい3人に一人は大学・短大卒業者ということになる。また、性別では女性が多い。

昼間部で4大卒の割合が高いのは、医療関係分野の「はり・きゅう・あんまマッサージ指圧」で42.3%を占めている。このほか4大卒の割合が高い領域は教育・福祉分野の「介護福祉・その他」（16.5%；短大卒の4.2%を合わせると大学・短大卒の割合は20.7%）、工業分野の「土木・建築・測量」（6.3%）、医療分野の「歯科衛生・歯科技工」（7.7%）、衛生分野の「製菓」（6.8%）、文化教養分野の「語学」（6.3%；短大卒の5.2%を合わせると大学・短大卒の割合は11.5%）である。夜間部で4大卒者の比率が高いのは昼間部同様、医療分野の「はり・きゅう・あんまマッサージ指圧」で41.1%を占めている。また「その他の医療」（36.5%）でも4大卒の割合が高い。このほか4大卒の割合が高い領域は教育・福祉分野の「介護福祉・その他」（36.7%）、文化・教養分野の「美術・デザイン」（32.7%）、文化・教養分野の「語学」（36.0%）である。

なお、大学・短大在学生の「ダブル・スクール」の割合が多いのは、文化・教養分野の「語学」（25.3%）である。そのほか比較的「ダブル・スクール」の割合が多いのは、服飾・家政分野の「服飾・家政」（7.2%）、工業分野の「土木・建築・測量」（5.1%）、文化・教養分野の「美術・デザイン」（5.1%）である。2001年度には実数でも割合でも前年比でわずかに減少した「大学・短大卒の専門学校入学者」であるが、それでも割合にして全入学者の約10%、人数にして約9,000人である。この数は制度化された「専門学校卒業後大学に編入学する人」よりも多いのである。

専門学校から4年制大学3年次編入の状況、大学・短大卒業者の専門学校入学の状況は、「専門学校と大学の接続」の問題を提起している。前者が制度化され実際に運用されているのに対して、後者はあまり問題にならず「一部の恵まれた人」の問題にされようとしている。実際に、学費等のことを考えるとそうした一面もうかがえるが、実数からして後者のほうが多いのも事実である。「専門学校と大学の接続」に関して、「大学・短大卒業者が専門学校で学ぶこと」に注目すると、次のような問題を設定することができる。

- ① 専門学校から大学に編入することは単位が認定され制度化された生涯学習の一つの流れであるが、大学卒業後に専門学校に入学することは制度上、生涯学習としての位置づけがない。大学・短大における「学び」と専門学校における「学び」の違いは何か？いわゆる1条校と82条校の垣根は低くなったが、どんなことをどこで学ぶかの順序によって制度上は大学上位になっている。大学教育は職業教育にどのようにつながるのか？
- ② 大学・短大卒の専門学校入学者は専門学校教育に何をもちたすのか？先行研究では目的意識が明確で学ぶ意欲が旺盛な大学・短大卒の学生を評価し、積極的に受け入れたいという専門学校の意向がうかがえる（東専各協，1998b；長須，2001b）。
- ③ 先行研究によれば、専門学校で学ぶ多くの大学・短大卒者が「大学・短大は自由で楽しかったけれども意味がなかった」と感じている。彼ら・彼女らが評価する大学・短大教育の「よさ」は「時間があること」「いろいろな人と出会えること」「興味あることを幅広く学べること」「高校までの管理的環境とは反対の自主的・自立的生活」である。逆

に大学・短大の「問題点」は「実地的な＝実務に即した知識や技能が得られない」「就職に対する指導・援助の姿勢が希薄である」「教員と学生とのコミュニケーションがほとんどない」である。一方、専門学校「よさ」としてあげられているのは「先生の教え方が分かりやすく丁寧である」「先生が親しみやすく熱心である」「個人にきちんと目を向けた就職指導が行われ実際に希望に近い就職ができる」「資格・検定の取得、就職などの目標がはっきりしているので勉強する気になれる」「同じ目標を持つ仲間がいるので励みになる」である。専門学校教育の問題点としては「カリキュラムが固定的で選択がほとんどない」「狭い分野について深く学び、実習も多く実務に即しているが学びの内容に広がりがない」「自主性を重んじる大学・短大に比べると、高校までのような厳しい生活指導があったりして“おとな”としての自覚を促すような指導ができない」等があげられている（東専各協，1998a；長須，2001a；長須，2002）。大学・短大と専門学校の両方を経験してわかることとはいえ「得られるはずのないこと」を大学・短大に求め、自由な時間を過ごして初めて「やりたいこと」や「社会に出る自信のない自分」に気がついて大学教育で得られなかったものを専門学校教育に求めるとしたら、大学教育は多くの学生のニーズとかけ離れたものであり、コストの無駄ではないのか。以上の問題について調査を行い、その実態を明らかにして考察する試みが本研究である。

2. 方 法

本研究に関する調査は筆者が設計して、2001年度専門学校進学指導研究会（専進研と略記）研究調査委員会の「大学・短大卒業生の専門学校入学に関する調査」として実施された。「大学・短大卒業生の専門学校入学に関する調査」は「学校調査」と「学生調査」の2つから構成されている。「学校調査」は、学校としての大学・短大卒業生受け入れの状況、大学・短大卒業生受け入れにあたっての配慮の有無、学校として大学・短大卒業生を受け入れることをどのように評価しているか、がその主な内容である。また「学生調査」は「どんな人が大学・短大卒業後に専門学校で学んでいるのか」、を中心にしている。調査の概要は以下の通りである。

①実施時期：2001年6月から7月

②調査対象：学校調査＝専進研加盟校133校の教務・学務担当者

学生調査＝専進研加盟校133校の2001年度在籍学生1,000人

③調査方法：学校調査＝専門学校進学指導研究会加盟校133校の教務・学務担当者に「学校調査」の調査票を郵送し、記入してもらった後、ファックスで受信・回収した（回収数は44校、回収率は33.1%）。

学生調査＝あらかじめ該当者数（概数）を尋ねた上で専門学校あてに調査票を郵送し、授業時間内またはホームルーム時に該当する学生に配布して記入してもらい、その場で回収して学校ごとにまとめて郵送で回収した（回収数464、回収率46.4%）。

なお、「学校調査」「学生調査」とともに回収された調査票は属性や内容に重大な記入漏れ等がなかったので、全て分析に使用した。また、「学校調査」に関しては同一法人・同一学校で複数の専門課程を持つ場合もあるが、ここでは全てひとつの学校として（最も学生数が多い専門課程のカテゴリーで）扱った。

3. 結果と考察

(1) 学校調査

学校調査の結果を〈表1①～⑤〉にまとめた。

〈表1〉① 大学・短大卒業者の専門学校入学実績〉

課 程	入学実績なし	入学実績あり	合 計
工業専門課程	0	4(100.0)	4(100.0)
医療専門課程	0	1(100.0)	1(100.0)
理容・美容専門課程	0	4(100.0)	4(100.0)
栄養・調理専門課程	0	6(100.0)	6(100.0)
商業実務専門課程	2(20.0)	8(80.0)	10(100.0)
服飾専門課程	0	10(100.0)	10(100.0)
芸術専門課程	0	5(100.0)	5(100.0)
文化教養専門課程	1(25.0)	3(75.0)	4(100.0)
	3(6.8)	41(93.2)	44(100.0)

② 大学・短大卒業者の専門学校入学の増減（前年度との比較）

課 程	増 加	変わらない	減 少	わからない	合 計
工業専門課程	1(25.0)	2(50.0)	1(25.0)	0	4(100.0)
医療専門課程	0	0	1(100.0)	0	1(100.0)
理容・美容専門課程	1(25.0)	1(25.0)	2(50.0)	0	4(100.0)
栄養・調理専門課程	1(16.7)	3(50.0)	1(16.7)	1(16.7)	6(100.0)
商業実務専門課程	1(10.0)	6(60.0)	2(20.0)	1(10.0)	10(100.0)
服飾専門課程	6(60.0)	3(30.0)	1(10.0)	0	10(100.0)
芸術専門課程	2(40.0)	2(40.0)	1(20.0)	0	5(100.0)
文化教養専門課程	2(50.0)	1(25.0)	0	1(25.0)	4(100.0)
	14(31.8)	18(40.9)	9(20.5)	3(6.8)	44(100.0)

③ 大学・短大卒の入学者に対する対応

課 程	一定の対応	個別に対応	特別な対応なし	合 計
工業専門課程	1(25.0)	0	3(75.0)	4(100.0)
医療専門課程	0	0	1(100.0)	1(100.0)
理容・美容専門課程	0	1(25.0)	3(75.0)	4(100.0)
栄養・調理専門課程	0	2(33.3)	4(66.7)	6(100.0)
商業実務専門課程	1(10.0)	1(10.0)	8(80.0)	10(100.0)
服飾専門課程	1(10.0)	3(30.0)	6(60.0)	10(100.0)
芸術専門課程	1(20.0)	0	4(80.0)	5(100.0)
文化教養専門課程	1(25.0)	1(25.0)	2(50.0)	4(100.0)
	5(11.4)	8(18.2)	31(70.5)	44(100.0)

また、「大学・短大卒業者が専門学校に入学することについてどう思うか」についての自由記述の主なものを以下に示す。

*一定水準の学力が備わっており、特に就職についての意識が高く、資格取得等の目標意識もはっきりしている者が多いので良い結果が期待できる。(商業実務)

*大学・短大卒業者(中退者も含む)は能力レベルが高く、学習意欲が非常に旺盛であるため、授業中の態度が極めてよく、質問を活発にする。このため、クラス全体が意欲を持つようになり、よい雰囲気作りに貢献してくれる。本校としては、このような学生を大歓迎する。(栄養・調理)

*資格取得、技術力のアップなど目的が明確な学生が多いので、今後も大学・短大卒業者を増やしたいと考えている。就職状況も良好である。(工業)

*各種の資格取得と即戦力となるので大変に好ましいことと考えます。(理容・美容)

学校調査の結果は次の3点に要約しうる。

回答をよせたほとんどの専門学校で大学・短大卒業生を受け入れた実績があり、70 %

以上の学校が前年と比較して「増加」または「変化なし」としている。また減少した学校でも実数で大きく減少している学校はなく、大学・短大卒業生の受け入れは定着しているといえる。

大学・短大卒業生の受け入れに関して特別な配慮をしている学校は少数（約10%）である。配慮の内容は自己推薦入学、社会人推薦入学など入学者選抜制度に関するもの、入学金や授業料、教育充実費などの一部免除などが多い。履修と単位認定に関しては、大学・短大で取得した単位の一部を認定したり、履修の免除を行ったりしている学校もある。少数ではあるが、編入学をさせている学校もある。ただしそれは制度として確立させているというより、入学する学生に個別に対応している状況である。

自由記述からは、分野による差はあるものの専門学校として大学・短大卒業生を受け入れることは、意欲や能力の面から概ね「よい影響」があると認識されており、受け入れは歓迎されているといえる。

(2) 学生調査

学生調査の結果を「専門学校に入学した4年制大学・短大卒業生の属性」として〈表2①～⑤〉にまとめた。

〈表2〉 ① 専門課程 × 性別

専 門 課 程 \ 性 別	男 性	女 性	合 計
工 業 専 門 課 程	83(45.6)	99(54.4)	182(100.0)
医 療 専 門 課 程	0(0.0)	13(100.0)	13(100.0)
理 容 ・ 美 容 専 門 課 程	9(19.1)	38(80.9)	47(100.0)
栄 養 ・ 調 理 専 門 課 程	23(38.3)	37(61.7)	60(100.0)
商 業 実 務 専 門 課 程	22(34.4)	42(65.6)	64(100.0)
服 飾 専 門 課 程	1(5.9)	16(94.1)	17(100.0)
文 化 教 養 専 門 課 程	17(60.7)	11(39.3)	28(100.0)
デ ザ イン 専 門 課 程	20(37.7)	33(62.3)	53(100.0)
	175(37.7)	289(62.3)	464(100.0)

② 専門課程 × 卒業した校種

専 門 課 程 \ 校 種	短 大	4 年 制 大 学	合 計
工 業 専 門 課 程	57(31.3)	125(68.7)	182(100.0)
医 療 専 門 課 程	8(61.5)	5(38.5)	13(100.0)
理 容 ・ 美 容 専 門 課 程	25(53.2)	22(46.8)	47(100.0)
栄 養 ・ 調 理 専 門 課 程	17(28.3)	43(71.7)	60(100.0)
商 業 実 務 専 門 課 程	38(59.4)	26(40.6)	64(100.0)
服 飾 専 門 課 程	15(88.2)	2(11.8)	17(100.0)
文 化 教 養 専 門 課 程	10(35.7)	18(64.3)	28(100.0)
デ ザ イン 専 門 課 程	20(37.7)	33(62.3)	53(100.0)
	190(40.9)	274(59.1)	464(100.0)

③ 専門課程 × 年齢

専門課程\年齢	20～21	22～23	24～29	30～35	35～45	45～	合 計
工業専門課程	36(20.2)	65(36.5)	70(39.3)	6(3.4)	0(0.0)	1(0.6)	178(100.0)
医療専門課程	4(30.8)	5(38.5)	2(15.4)	1(7.7)	1(7.7)	0(0.0)	13(100.0)
理容・美容専門課程	15(31.9)	16(34.0)	14(29.8)	2(4.3)	0(0.0)	0(0.0)	47(100.0)
栄養・調理専門課程	10(16.7)	9(15.0)	20(33.3)	8(13.3)	4(6.7)	9(15.0)	60(100.0)
商業実務専門課程	31(48.4)	26(40.6)	7(10.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	64(100.0)
服飾専門課程	14(82.4)	2(11.8)	1(5.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	17(100.0)
文化教養専門課程	7(25.0)	15(53.6)	5(17.9)	0(0.0)	1(3.6)	0(0.0)	28(100.0)
デザイン専門課程	13(24.5)	28(52.8)	11(20.8)	1(1.9)	0(0.0)	0(0.0)	53(100.0)
	130(28.3)	166(36.1)	130(28.3)	18(3.9)	6(1.3)	10(2.2)	460(100.0)

④ 専門課程 × 大学・短大の専攻学部学科系

専門課程\学科系	法学	経済経営商	文・教育・教養	社会・社会福祉	国際関係	外国語
工業専門課程	9(4.9)	49(26.9)	27(14.8)	6(3.3)	6(3.3)	4(2.2)
医療専門課程	0(0.0)	3(23.1)	4(30.8)	1(7.7)	0(0.0)	0(0.0)
理容・美容専門課程	4(8.5)	9(19.1)	13(27.7)	2(4.3)	1(2.1)	2(4.3)
栄養調理専門課程	2(3.3)	9(15.0)	16(26.7)	0(0.0)	1(1.7)	2(3.3)
商業実務専門課程	0(0.0)	25(39.1)	22(34.4)	0(0.0)	3(4.7)	0(0.0)
服飾専門課程	0(0.0)	1(5.9)	8(47.1)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)
文化教養専門課程	2(7.1)	12(42.9)	7(25.0)	0(0.0)	1(3.6)	1(3.6)
デザイン専門課程	4(7.5)	7(13.2)	13(24.5)	2(3.8)	3(5.7)	2(3.8)
	21(4.5)	115(24.8)	110(23.7)	11(2.4)	15(3.2)	12(2.6)

専門課程\学科系	理工学	情報・通信	農・水産・生物	家政・生活科学	栄養	薬学・医療
工業専門課程	31(17.0)	2(1.1)	7(3.8)	20(11.0)	3(1.6)	2(1.1)
医療専門課程	0(0.0)	1(7.7)	0(0.0)	3(23.1)	0(0.0)	0(0.0)
理容・美容専門課程	2(4.3)	2(4.3)	1(2.1)	4(8.5)	0(0.0)	0(0.0)
栄養調理専門課程	10(16.7)	10(16.7)	2(3.3)	3(5.0)	4(6.7)	3(5.0)
商業実務専門課程	2(3.1)	2(3.1)	1(1.6)	5(7.8)	1(1.6)	0(0.0)
服飾専門課程	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	5(29.4)	0(0.0)	0(0.0)
文化教養専門課程	0(0.0)	0(0.0)	1(3.6)	2(7.1)	0(0.0)	0(0.0)
デザイン専門課程	3(5.7)	1(1.9)	0(0.0)	7(13.2)	1(1.9)	1(1.9)
	48(10.3)	11(2.4)	13(2.8)	49(10.6)	9(1.9)	6(1.3)

専門課程\学科系	芸術	教員養成	体育・社会体育	合 計
工業専門課程	14(7.7)	2(1.1)	0(0.0)	182(100.0)
医療専門課程	1(7.7)	0(0.0)	0(0.0)	13(100.0)
理容・美容専門課程	3(6.4)	3(6.4)	1(2.1)	47(100.0)
栄養調理専門課程	3(5.0)	2(3.3)	1(1.7)	60(100.0)
商業実務専門課程	2(3.1)	0(0.0)	0(0.0)	64(100.0)
服飾専門課程	0(0.0)	1(5.9)	0(0.0)	17(100.0)
文化教養専門課程	0(0.0)	2(7.1)	0(0.0)	28(100.0)
デザイン専門課程	6(11.3)	3(5.7)	0(0.0)	53(100.0)
	29(6.3)	13(2.8)	2(0.4)	464(100.0)

⑤ 専門課程 × 大学の専攻との関連性の有無

専門課程\関連	関連あり	多少関連	関連なし	合 計
工業専門課程	16(9.2)	49(28.3)	108(62.4)	173(100.0)
医療専門課程	0(0.0)	1(8.3)	11(91.7)	12(100.0)
理容・美容専門課程	0(0.0)	8(17.0)	39(83.0)	47(100.0)
栄養・調理専門課程	4(6.7)	15(25.0)	41(68.3)	60(100.0)
商業実務専門課程	8(12.5)	17(26.6)	39(60.9)	64(100.0)
服飾専門課程	4(23.5)	8(47.1)	5(29.4)	17(100.0)
文化教養専門課程	3(11.1)	6(22.2)	18(66.7)	27(100.0)
デザイン専門課程	5(9.6)	11(21.2)	36(69.2)	52(100.0)
	40(8.8)	115(25.4)	297(65.7)	452(100.0)

また、学生からみて入学時に「何らかの配慮があったかどうか」について〈表3〉に整理した。

〈表3 入学にあたっての配慮の有無〉

課 程	配 慮 な し	配 慮 あ り	合 計
工 業 専 門 課 程	168(94.4)	10(5.6)	181(100.0)
医 療 専 門 課 程	8(61.5)	5(38.5)	13(100.0)
理 容 ・ 美 容 専 門 課 程	42(91.3)	4(8.7)	46(100.0)
栄 養 ・ 調 理 専 門 課 程	56(93.3)	4(6.7)	59(100.0)
商 業 実 務 専 門 課 程	43(70.5)	18(29.5)	62(100.0)
服 飾 専 門 課 程	6(37.5)	10(62.5)	17(100.0)
文 化 教 養 専 門 課 程	17(68.0)	8(32.0)	27(100.0)
デ ザ イン 専 門 課 程	51(96.2)	2(3.8)	52(100.0)
	391(86.5)	61(13.5)	457(100.0)

入学にあたっての配慮の内容（自由記述）の主なものを以下に示す。

*取得単位が62単位以上あると、授業料が免除されること。（短大国文／商業実務）

*短大の履修単位が認定された科目があった。（短大栄養／工業）

東専各協では過去に2回、「専門学校に学ぶ大学・短大卒業生の学歴観・職業観に関する調査」を行ってきた。今回の調査は大学・短大卒業の専門学校入学者の属性と入学の動機について調査している点で、今までの調査を補足するデータが得られている。「学生調査」結果は以下の4点に集約しうる。

大学・短大生の就職難（就職したがない傾向も含めて）を反映してか、ほとんどの分野で女性の入学者の割合が高い。また、約60%が4年制大学卒業者である（男性はほとんど4大卒、女性は短大卒：四大卒＝2：1）。

年齢は20～21歳（短大卒すぐ）、22～23歳（4大卒すぐ）で約65%を占め、「何らかのスキルを身につけ就職するため」に専門学校で学んでいる傾向がうかがえる。大学・短大卒業後すぐに専門学校に入学する人はその多くが就職活動をしておらず、大学・短大在学中から（多くの場合最終学年になる前に）卒業後は「専門学校に進学する」と決めていたケースが大部分を占める。

大学・短大での専攻は「経済・経営・商学」（24.8%）、「文・教育・教養」（23.7%）でほぼ半数を占める。これらの専攻は教職免許や社会教育主事任用資格を除くと特別な資格やスキルが得にくい領域であり、関連した資格・スキルは伝統的に専修学校で教育されてきた領域でもある。以下「家政・生活科学」（10.6%）、「理工学」（10.3%）となっている。これら2つの専攻の卒業者は社会人経験があり、比較的年齢が高いのが特徴である。また、現在学んでいる専門学校の分野・学科と大学・短大での専攻との関連については「関連なし」が65%以上を占め、「関連あり」は10%に満たない。

専門学校で学ぼうと思った理由としては「免許や資格をとるため」（49.1%）「就職する際に有利になる知識や技能を得るため」（42.7%）が多くあげられている。こうした動機は「専門学校教育に求めるもの」（自由記述）として「実用的な知識・技能」「資格」「実戦力」といった仕事に直結する内容があげられていることに反映されている。

4. まとめと今後の課題

今回の調査から、専門学校は多くの大学・短大卒業者を受け入れていることを明らかにすることができた。その数は専門学校入学者の全国では約6%、東京都では約10%である。

この数は専門学校卒業後4年制大学3年次に編入する数よりはるかに多い。

分野による差はあるが、多くの専門学校が大学・短大卒業者を受け入れた実績があり、入学を歓迎する意見が多い。これは今に始まったことではなく、各種学校の時代から「資格取得」などのために学んだ大学・短大卒業者は相当数いたのである。その意味では、特に驚くにはあたらないが、最近の傾向は「大学・短大卒業後すぐに専門学校に入学する」者の増加である。大学・短大卒業後専門学校に入学する人は就職活動をしなかったケースも多く、ある意味では専門学校が職業の直接的な「入り口」とあるという認識があることもうかがえる。

専門学校で学ぶ理由は、超氷河期といわれる就職事情を反映してか「免許・資格の取得」「就職」がその主なものである。また、現在学んでいる専門学校の分野と大学・短大での専攻との関連については「関連なし」が65%以上を占め、「関連あり」は10%に満たない。専門学校に入学する人の大学・短大での専攻は「経済・経営・商学」、「文・教育・教養」でほぼ半数を占める。これらの専攻は特別な資格やスキルが得にくい領域であり、現在就職が特に厳しい領域でもあり、関連したスキルが伝統的に専修学校で教育されてきた領域でもある。「家政・生活科学」、「理工学」領域の卒業者も比較的多いが、これらの領域を専攻した者は、関連のある分野への入学が比較的多い。また、これら2専攻の卒業者は社会人経験があり、比較的年齢が高いのが特徴である。

今後は、大学・短大を卒業後専門学校で学び、卒業した人たちがどのような生活をしているか、入職から初期キャリア形成までを追跡した調査によって明らかにする必要がある。少なくとも「就職」できるメリットがあることは専門学校調査から明らかにされているので、「大学・短大」と「専門学校」両方を卒業したメリットはあるのか、あるとすればどんなことなのかを追究することによって、「大学で学ぶこと」と「専門学校で学ぶこと」それぞれの意味と意義も見えてくると思われる。制度化されていない「大学・短大から専門学校へ」という流れから大学教育と職業教育の繋がりを考えることが今後の課題である。

《引用参考文献》

- 1) 長須正明 「専門学校卒業者の大学編入に関する研究－2000年度専進研調査における自由記述を中心に－」、『専進研研究集録』4，専進研，2001a，pp. 67-73.
- 2) 長須正明 「専修学校専門課程（専門学校）から大学編入の現状と課題－東京における調査より－」、『日本生涯教育学会論集』22，日本生涯教育学会，2001b，pp. 89-96.
- 3) 長須正明（編著） 『大学・短大卒業後専門学校で学んだ人のキャリア形成』，専門学校進学指導研究会，2002.
- 4) 東京都専門学校各種学校協会編 『大学・短大から専門学校への進学をめぐって』，社団法人東京都専門学校各種学校協会，1998a.
- 5) 東京都専門学校各種学校協会編 『専門学校に学ぶ大学・短大卒業生等の学歴観・職業観調査報告書』，社団法人東京都専門学校各種学校協会，1998b.
- 6) 東京都専門学校各種学校協会編 『キャリアエデュ』No.10，社団法人東京都専門学校各種学校協会，2002.
- 7) 東京都専門学校各種学校協会編 『平成13年度専修学校各種学校調査統計資料』，東京都専門学校各種学校協会，2002.